



ヒマワリ

★★★

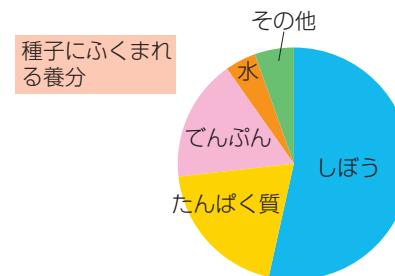
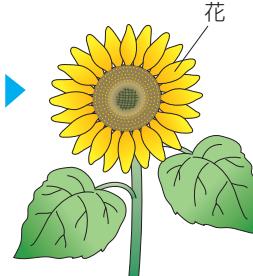
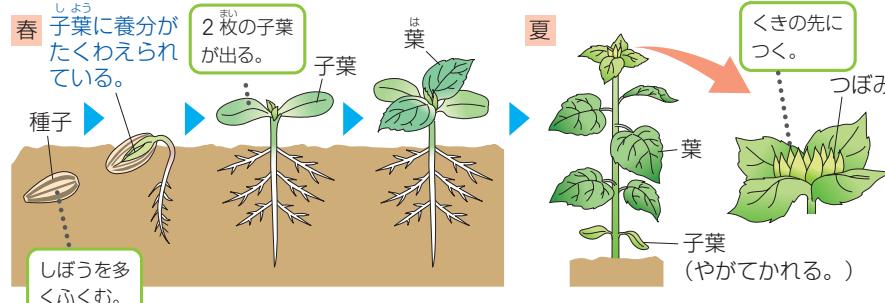
ヒマワリは、夏になると高くのびたきの先に大きな黄色の花をさかせる植物です。学校の花だんなどで見られます。

ヒマワリの種子にはしぶう（油）が多くふくまれており、食用とされることもあります。



成長のようす

ヒマワリは(1)です。春に種子が発芽すると、夏にかけて大きく成長し、やがて花をさかせて種子をつくり、秋から冬にはかれます。

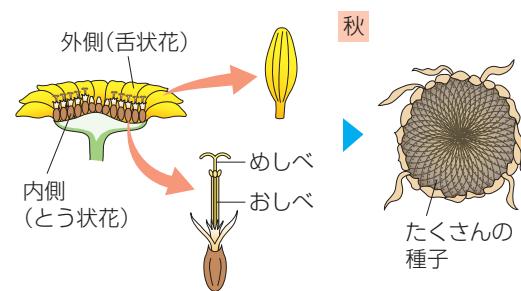


+プラスワン

ヒマワリは、成長がさかんな若い時期には、日光がある方向に葉をむけるように動きますが、やがてその動きはなくなります。日光をさえぎるものがない場所で育ったヒマワリは東向きで動きを止めるため、花が東向きにさきます。

花のつくり

ヒマワリの花は、たくさん小さな花が集まって1つの花のようになっています。外側にあるのが舌状花（舌状花）で、内側にあるのがつつのようないとう状花（筒状花）です。(2)にめしべやおしべがあり、(2)の1つ1つに種子ができます。



+プラスワン

ヒマワリのとう状花は、外側にあるものから順に開花します。

ヒマワリの花は、2週間ほど間、開花しています。

+プラスワン

キク科の植物は、花がタンポポのように舌状花だけでできているなかまと、ヒマワリのように舌状花ととう状花またはとう状花だけでできているなかまに大きく分かれます。

受粉の仕方

ヒマワリの花は、昆虫に花粉を運んでもらう(3)です。

+プラスワン

舌状花は、昆虫を引き寄せるためについています。ヒマワリは開花している時間が長いため、その分受粉する確率が高くなります。

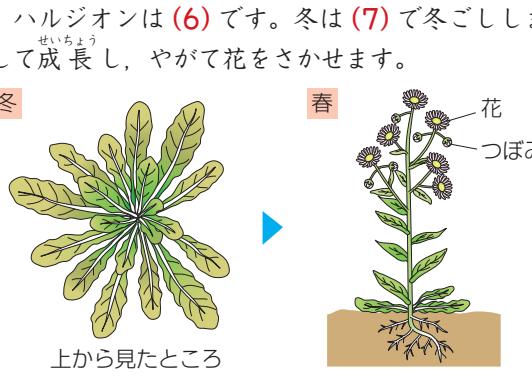
(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載しておりません。

ハルジオン

★★★

ハルジオンは、(4)に、(5)道ばたや公園などで花をさかせているのが見られます。

成長のようす



+プラスワン

ハルジオンは(6)です。冬は(7)で冬ごしします。(8)になるとくきをのばして成長し、やがて花をさかせます。

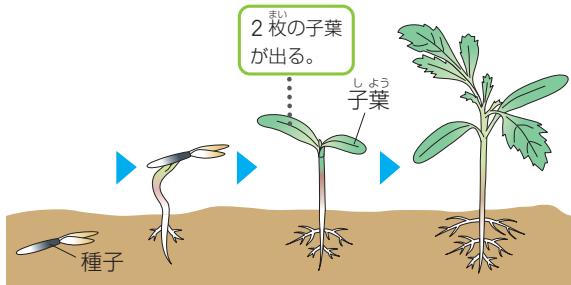
ハルジオンやヒメジョオンの花は、ヒマワリの花と同じように、舌状花ととう状花でできています。

マリーゴールド

★★★

マリーゴールドは、(14)から(15)にかけて、花だんなどであざやかな黄色やオレンジ色などの花をさかせる植物です。

マリーゴールドは(16)です。春に種子をまくと、発芽して成長し、初夏から秋に花をさかせます。



キク

★★★

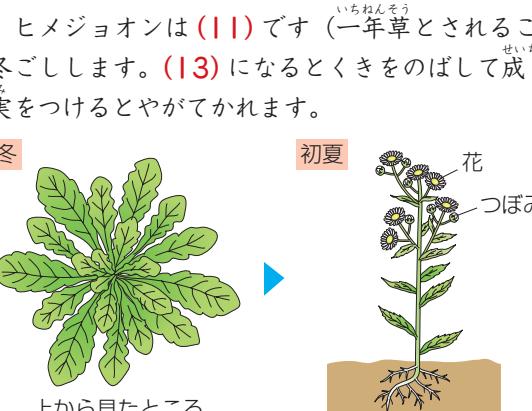
キクは、観賞用に育てられたり、仏壇に供えられたりと、昔から日本人に親しまれてきた植物です。種類によっては食用とされるものもあります。

成長のようす

★★★

ヒメジョオンは、(9)に、(10)道ばたや公園などで花をさかせているのが見られます。

成長のようす



+プラスワン

ヒメジョオンは(11)です(一年草とされることもあります)。冬は(12)で冬ごしします。(13)になるとくきをのばして成長し、やがて花をさかせます。実をつけるとやがてかれます。

ヒメジョオンの花はハルジオンの花に比べてやや小さく、咲く時期が少しおそいです。また、ヒメジョオンはくきに空どうがなく、ハルジオンにはあります。

開花条件

キクは、1日のうちで暗い時間の長さが一定より(21)なる(日が短くなる)とつぼみをつけ、開花する(22)です。



キクのさいばいでは、たくさんの電球を使って明るい時間を調節し、開花する時期をずらす「電照栽培」などが行われており、1年を通して出荷されるんじゃ。入試では、暗い時間の長さをかえてキクなどを育てる実験の問題があるんじゃぞ。

